

「延宝の庚申塔」

松伏町指定有形民俗文化財
昭和50年6月1日指定

庚申信仰は江戸時代に流行した民間信仰です。庚申の日には、人間の体内に住む三尸の虫が眠っている間に抜け出し、その人の悪事を天帝に告げるため、寿命を縮められてしまうと言われていました。それを防ぐため、庚申の日には眠らずに夜を明かしました。これを繰り返すと三尸の虫が死に絶え、長寿が約束されるとしました。庚申塔は、おもにそのことを記念して造立されたもので、町内でも明治時代に至るまでの104基が確認されています。

妙楽寺（大字大川戸）にある「延宝の庚申塔」は、町内で2番目に古い庚申塔で、延宝5年（1677）の造立です。庚申塔の初期形態の特徴を有しています。写真中ほどに見えるのは、右から、目をふさいだ見ざる、耳をおさえた聞かざる、口をおさえた言わざるの三猿です。悪事を行わず身を慎みます、という意味で、庚申塔にはつきものとなっています。



延宝五丁巳年
奉寄進庚申供養
九月廿二日
三猿